

議員の手づくり

市政かわら版

編集・発行/豊中市議会 無所属の会
〒561-8501豊中市中校塚3-1-1
(豊中市役所内)
TEL.6858-2620(直通)
FAX.6852-2384

三月議会報告

どうあるべき???

学校規模に関する課題の解消!



あるA中学校で生徒数の増加が見込まれ、教室不足が想定されたとします。そこで、教育委員会は、A校を増築することで、教室不足の解消を図ることを提案してきました。

しかし、A中学校の近接する場所に、B中学校があり、両校の状況は左の表の通り、大きな差が生じています。

	A中学校	B中学校
校舎等の面積	24600m ²	26697m ²
運動場の面積	9900m ²	15090m ²
校区内小学校	C小学校、D小学校 E小学校、F小学校	G小学校、H小学校
生徒数	828人	252人
空き教室	2教室	24教室
一人当り運動場面積	12.0m ²	59.9m ²

校舎も運動場も狭いA中学校に、B中学校の3倍以上の生徒が通学しています。また、増築されようとしているA中学校の空き教室は2教室しかありませんが、B中学校には24教室も空き教室があります。

そこで、私たちの会派は、A中学校の増築ではなく、A中学校に通うC小学校の通学区域を変更することで、A中学校の教室不足の解消とB中学校の規模課題の解消を図るべきと考えます。

実際に、教育委員会から『学校規模と通学区域に関する課題の解消に向けた具体的方策』について諮問を受けた学校教育審議会も、「A中学校が生徒数、学級数の増加が見込まれ、少人数指導等に必要で教室等の確保が困難なことか

ら将来的な教室不足を未然に回避することが望ましい。また、両校とも三小一中に揃えることにより、両校の教育環境の改善が期待でき、適切な時期に通学区域の変更を実施することが望まれる。」と答申しました。

C小学校の通学区域の変更により、A中学校の教室不足やB中学校の小規模課題の解消を図れると共に、B中学校の空き教室の有効活用につながり、市の財政負担も大幅に軽減できると考えます。学校教育審議会の答申を無視してまで、A中学校の増築を進めようとする教育委員会の姿勢を、皆さんはどう思われるでしょうか?



戦略的な都市経営と市長の公約進捗の公表

Q. 長内市長が選挙で、市民に示された54項目の基本政策で公約の実行・実現に向けて取り組んでいこうとされている。市民や議会にその進捗状況をわかりやすくするために、政策・施策ごとに分けた工程表を作成し、評価を公表すべきと考えるが、市長の見解は?

A. 私が考える戦略的な都市経営は強いリーダーシップのもと、中長期の視点でスピード感をもって、大胆な選択と集中、公民連携により、施策を展開していくことであります。公約の進捗状況の公表については、基本政策の進捗状況を毎年度評価し、その結果を市民や議会の皆さんに広く公表していく。

工程表についても、今後公表していく。

会議の効率化、合理化を追求

★ペーパーレス化(資料の電子化)の推進を!

Q. 各種会議の準備の省力化、紙使用量の削減、会議運営の効率化を目的にペーパーレス会議システムを導入したが、具体的な効果と課題は?

A. 会議の準備時間が1/20程度になるとともに、紙の使用量は、昨年10月からの5か月間で累計14万枚程度の削減につながった。

Q. スカイプなどを活用したウェブ会議の導入も検討すべきでは?

A. ウェブ会議については、会場に移動するための時間や費用が削減できるなどのメリットがあると考えており、国、他市の事例等を収集しながら、導入についての課題整理を行っていく。

(意見) 全庁的な業務効率の向上を目指し、ペーパーレス会議システムの活用拡大を図るべき。また、ウェブ会議についても導入に向けて検討すべき。

積極的な外部人材の登用を提案

★組織改編と共に、人員体制の見直しも!

Q. 新年度から『都市経営部』や『経営計画課』、『広報戦略課』や『人材戦略長』を配置されるが、組織改編に併せ、専門的なノウハウを持つ人材を外部から登用しては?

A. 市の業務を進めるには、行政経験により培われる知識や技術などが不可欠な側面がある。長期勤続を前提に、様々な職務を経験することで職員的能力が開発され、十分に発揮できると考えており、特定の分野に特化した外部人材の採用は、考えていない。

(意見) 行政経験により培われる知識や技術を絶対視することが、既成概念にとらわれたり、果敢に挑戦することを躊躇させたりする要因に

なっているのではないかとと思う。専門的なノウハウを持った外部人材を登用し、これまでにないアイデアや発想を積極的かつ貪欲に取り入れ、活用していくべき。

効果的かつ効率的な授業を模索

★教育現場にも、AI(人工知能)の積極的活用を!

Q. 各学校での各種テストの結果をAIに分析させることで、児童・生徒の学力や習熟度を適切に把握し、より効果的かつ効率的で、個々に応じた授業カリキュラムの作成が可能になるのでは?また、教員の負担軽減にもつながるのでは?

A. AIの活用は、効果的な学習支援や教職員の効率的な働き方につながる可能性があると考えるが、実用化については更なる検討が必要で、引き続き、その技術の進展を見据え、国や先進自治体の動向を注視し、研究に努めていく。

(意見) AIの活用でテストの結果分析が、より効率的に行えたり、個々に応じた効果的な学習法やカリキュラムが瞬時に作成できたりするなど、様々な可能性が期待できる。教職員の負担軽減も見込めるため、今後の活用に向けて積極的に取り組むべき。



10連休中の柔軟な対応を要望

★市民生活への

影響を最小限に！

Q. 今年は今上陛下のご退位、現皇太子殿下の新天皇陛下へのご即位があり、これに伴い、ゴールデンウィークが10連休となる。休業日が連続することで、市民生活に悪影響を及ぼさないよう、行政業務は柔軟に対応すべきではないか？

A. 図書館や体育施設は開館を基本とし、臨時的な休日対応として、住民票など各種証明書の交付や住所変更の手続きなどの窓口業務は、期間中に1日、市立豊中病院の外来診療業務は、期間中に2日、実施する予定。今後も引き続き、市民のニーズを踏まえ、必要となる対応を進めていく。

(要望) 窓口業務や市立豊中病院での外来対応については高く評価するとともに、市民生活への影響を最小限に抑えるため、引き続き、市民ニーズを的確に把握し、柔軟に対応して欲しい。

道路損傷等通報アプリ

『まちカメくん』の運用拡大を要望

★生活上の課題や不便へを

アプリで気軽に投稿を！

Q. 平成29年10月に運用が開始された『まちカメくん』だが、これまでの利用状況は？

A. 本年1月末までの登録者数は1019人、通報件数は450件。通報内容で多い事例としては、舗装に関する通報が102件と全体の約4

分の1を占めているほか、照明施設に関する通報が68件、カーブミラーに関する通報が56件、その他、側溝、車止め、路面標示の不具合などが186件で、道路に関するものが全体の約9割を占めている。

Q. 道路の不具合以外にも、生活上で支障や課題と思われる事例に遭遇したり、発見したりすることがある。道路の不具合と同様に、このアプリを活用して、市民の方々に通報して頂くことで、市として気付かなかった課題や問題に迅速に対応できるとともに、市民にとっても利便性が向上すると思うが、アプリの運用拡大はできないか？

A. 運用の拡充については、関係部局と調整を進めており、平成31年4月から新たに複数の課が参画する予定。これにより、水路の損傷、公園遊具の破損、ごみの不法投棄、舗装の下からの漏水などの不具合にも対応が可能となり、市民サービスの向上につながると考えている。

(意見) まだまだアプリの存在を知らない市民が少なくないように思う。より多くの方にアプリを活用して頂くことで、職員の更なる事務負担の軽減や通信費等の経費の削減なども図れると思うので、運用拡大に合わせて、より多くの方々にアプリの存在を知って頂くとともに、市に對する通報は、なるべくアプリを使用して行って頂けるよう、周知、啓発に一層、力を入れるべき。

豊中市道路損傷等通報アプリケーショ

『まちカメくん』ダウンロード

[App Store]



[Google Play]



※本アプリケーショの利用料は無料ですが、ダウンロード及び利用に伴う通信料金は利用者のご負担になります。

生ごみの焼却処理量の抑制を提案

★デイスポーザの設置推奨を！

Q. 『デイスポーザ（シンクの下に設置可能な生ごみ粉碎機）』を使用すれば、生ごみを家庭内に溜めず、常に排出処理できるため、虫や悪臭などの発生の防止、高齢者等のごみ出しの負担軽減、生ごみの焼却処理量の大幅削減、収集運搬や焼却処理に要する経費の削減など様々なメリットが考えられる。生ごみの排出量の抑制を目的に、デイスポーザの設置補助制度を創設できないか？

A. デイスポーザの普及については、将来に渡り維持管理が適切に行われていけば問題はないと考える。デイスポーザの設置による生ごみの減量効果等は期待できるが、その設置の推奨や補助制度の構築に関しては、他市の実施状況等を調査、研究していく。

(要望) デイスポーザの使用については、将来の維持管理が適切に行われていけば、問題はなく、生ごみの減量効果が期待できると認識しているのであれば、デイスポーザの設置推奨や補助制度の構築を積極的に進めるべき。



子どもの居場所の拡充を要望

★児童館の機能の充実を！

Q. 子育て世代の市民からは『豊中には児童館はないのですか？』という声をよく耳にする。放課後こどもクラブなどではない、小学生程度を対象とした児童館の機能について市はどのように考えているのか。

A. 子どもの居場所については、地域力を生かした身近な場所での安全・安心な居場所づくりとして、学校を拠点とした地域子ども教室をはじめ、子ども食堂を軸とした「子どもの居場所づくり地域福祉モデル事業」や放課後の居場所づくりなどに取り組んでいる。また、現在実施している「子どもの居場所づくりに関する地域資源調査」の結果などを踏まえ、地域の状況に応じた居場所づくりや全学的なネットワークづくりを進めていく中で、児童館の機能についても検討していく。



(要望) 子どもの居場所に対するニーズはますます高まっていくと推測するが、その際、必ずしも箱モノとしての児童館が必要ではなく、児童館の機能を既存の市有施設を複合化・多機能化する中で、あるいは地域で既に行われている子ども向けの市民活動などと連携して組み込んでいく視点が必要と考える。ぜひ、児童館の機能の拡充を前向きに検討して欲しい。

服部天神駅周辺整備の推進を要望

★時期を逃さない取組みを！

Q. 服部天神駅周辺整備の今後のスケジュールは？

A. 地権者の近接移転が可能な土地区画整理事業を活用し、33年度から34年度にかけて、移転補償交渉などを行い、最速で平成36年度の事業完了を目指している。



Q. 服部天神駅前整備が大きく進んでいるようにしている今、都市計画道路服部利倉線について本格的に取り組むタイミングではないか？

A. 大阪府に確認をしたところ、『多数の権利者の合意形成と、多額の事業費を要することから、当面の事業化は困難』とのこと。市としては、今後、服部天神駅前広場の整備に合わせて、都市計画道路と駅前広場との接続について、大阪府と協働・調整を行う予定であり、駅西側の区間については、駅へのアクセス路の観点からも、引き続き早期整備を要望していく。

(要望) 都市計画事業は長期的視点で取り組まなければ進まない事業である。ぜひ、タイミングを逃すことがないよう、市の事業進捗に併せて取り組みを進めてもらうよう府に積極的に働きかけて欲しい。